令和7年度 第1回オンライン研修 質疑応答一覧 (R7.5.14開催分)

※回答項目に参考のURLを記載しておりますが、ホームページやパソコンの設定上、URLをクリックしてもページが表示されない場合があります。表示されない場合は、URLを直接コピーして検索をしていただくようお願いいたします。

質問	回答
PPEについて	
1 PPE着衣時の手指消毒について着衣前とフェイスシールド着用後の2回だけでよいか？	PPE着脱方法も年々更新され、現在では着衣の際の一動作ごとの手指消毒は不要とされています。着用時に顔や髪に手が触れた時には、手指消毒を追加してください。
2 手袋装着は、1枚だけでよいか？	現在は、感染対策を目的として手袋を2重に着用することは推奨されていません。また、ある研究では、1重手袋で手袋を交換する場合と2重手袋で外手袋を外す場合では、2重手袋の外手袋を外した内手袋の方が汚染度が高いことが報告されており、米国疾病管理予防センター（CDC）も非滅菌手袋の2重使用を推奨していません。こまめな手指衛生が優先されます。
N95マスクについて	
3 ①レッドゾーンでのケアのたびにN95の交換は必要なのか？	N95マスクは、毎回交換が理想的です。複数回利用する場合は注意が必要です。使用可能時間は状況により異なります。県内の医療機関の中には、使用合計の目安を8時間程度とし、マスクの形状が変化したり、紐が緩んで顔フィットしない場合には、取り換えるなど、ルールを決めているところもあるようです。また、直接飛沫が付着し明らかに汚染したと思われる場合には、再利用はしないでください。
②N95マスクを使用した後、レッドゾーンから持ち出してグリーンゾーンで消毒し、干していたがそのように使ってよいか？	N95マスクはレッドゾーンを出るまで外しません。グリーンゾーンに出てから外しましょう。なお、表面の消毒はできません。保管方法については以下の項目③をご参照ください。
③N95を再利用する際に表面を消毒して保管していたが、それで良いのか？また、保管はどのようにするのか？	N95マスクへのアルコールによる消毒は推奨されておりません。アルコールの吹き付けにより、N95マスクの性能が劣化しやすくなるという研究報告もあります。保管の際は、マスク同士が触れ合わないような配慮をした保管を、施設の現状に応じてご検討ください。
4 PPEの脱衣手順で、手袋を一番に脱ぐのはなぜか？	レッドゾーンでの作業では、手袋が一番汚染されていると考えます。一番汚染されているものを最初に脱衣し、汚染を広げないようにする、という考え方が現在最も取り入れられており、それに準じた脱衣手順となっています。
5 フェイスシールドの再利用は何日間使用が可能か？	再利用できるフェイスシールドは、使用後に消毒用アルコールや次亜塩素酸ナトリウムで消毒します。一部の消毒薬や熱水消毒に適さないものもあるので、メーカーの推奨に従ってください。明らかな、落ちない汚れがある場合はすぐに交換してください。使用頻度も考慮し、各施設でルールを決められてください。

ゾーニングについて

1	<p>体調不良者の居室隔離が難しい時はどう対応したらよいか？</p>	<p>感染症が疑われる症状がある場合には、医師に診断される前であっても、速やかに予防措置をとることが必要です。体調不良者と接点が少ない利用者を別室へ移し、一部屋空室を作り、感染症が疑われる方を個室の空室へ移動させる。それでも個室対応が難しい場合は、「ベッドの間隔を2m以上あける」また「ベッド間をカーテンで仕切る」等の対応が考えられます。また、ケア時には、使い捨てのエプロンの使用、手袋、マスク、フェイスシールド等の着用が望ましく、使用器具の適切な消毒、おむつやティッシュ等をビニール袋でしっかりと閉じて捨てるなど、処理等もポイントとなります。</p> <p>施設内の感染対策について、入所者やその家族への周知も施設でご検討ください。</p> <p>医療機関を受診し診断がされた中で、医師の判断で隔離が必要なければ、隔離は不要です。</p>
2	<p>レッドゾーンとグリーンゾーンの区分けのしかたを詳しく知りたい。</p>	<p>「社会福祉施設職員向け 感染症対策パンフレット(2024.2)」の17ページから21ページをご参照ください。(ダウンロードは以下のアドレス)</p> <p>https://www.city.sasebo.lg.jp/hokenhukusi/kansen/documents/kansensyounpanfuretto.pdf</p>
3	<p>ゾーニングにおいて、認知症の方の対応が難しかった。隔離ができないときはどうすればよいか？</p>	<p>一般的な対応ですが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員も利用者もマスクをして、直接、顔と顔の密着は避ける。 ・対面での会話は避けて、利用者の横に立って会話をする。 ・換気が良いところで会話をする。 <p>マスク着用についての声かけは続け、そのうえで検温等、利用者の健康管理を徹底し、机や手すり等こまめな消毒をしましょう。できれば、なるべく他の利用者もマスク着用し、フロア内にウイルスを拡げないようにすることをお勧めします。また、利用者同士の距離をとるよう誘導するなど、ウイルスにさらされる機会を少なくするような工夫も一案です。</p> <p>そのほか、長崎県のホームページには「新型コロナウイルス対応人材育成研修におけるQ&A」のページ内に具体的な回答がありますのでご参照ください。</p> <p>https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushihoken/koreisha/jigyousya-oshirase/qa/#Q1-10</p>
4	<p>レッドゾーンで使用する血圧計など、個別配置する際に、数が不足する場合はどうしたらよいか？</p>	<p>同一疾患の場合は、レッドゾーン専用物品として、一人使用するごとにアルコール等を用いて消毒をした後、別の方に使用をすることは可能です。</p>

BCPについて

1	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP訓練事例はあるのか？ ・BCPの事例を知りたい。 	<p>研修と訓練を組み合わせて、施設のBCPを計画通り実践できるかを確認するものです。研修・訓練の例としては、BCPの概要を確認したり、陽性者判明時に連絡報告体制を確認したり、感染が疑われる利用者のゾーニング訓練を行うことなど様々な方法がありますので、各施設でできるやり方をご検討ください。</p> <p>また、施設同士で情報交換の場を設け、情報共有や意見交換の機会を持たれることも1つの方法かと思います。</p> <p>「令和5年度 東京都高齢者施設等のBCP策定支援事業 BCP研修・訓練ガイドブック」内には、研修や訓練の実施についての記載がありますのでご参照ください。</p> <p>https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/fukushi/kensyuukunren</p>
2	<p>感染対策の備品はそれぞれのくらい準備したらよいか？</p>	<p>厚生労働省のホームページ</p> <p>「介護施設・事業所における業務継続計画（BCP）作成支援に関する研修」のページの「介護施設・事業所における業務継続ガイドライン等について」内の、【例示入り】<令和5年度>「感染症ひな形」内の「補足4 様式6の備蓄品の目安計算シート」をご参照ください。</p> <p>https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/douga_00002.html</p>

感染症対策全般について		
1	家族の面会について指針があるか？	厚生労働省老健局高齢者支援課より、令和5年1月31日に出された指針についてはオンライン研修内でもご紹介した通りです。以下のパンフレットをご参照の上、各施設でのルールを決められてください。 https://www.mhlw.go.jp/content/001048692.pdf
2	他の感染症対策について知りたい	研修で紹介した内容は飛沫・接触感染の可能性のあるものを想定した感染対策の方法を説明しています。感染症には様々な種類があり、感染症や、感染経路により感染症対策の方法も変わります。厚生労働省の「(第3版)介護現場における感染対策の手引き」内に、主な感染症への対策が掲載されていますのでご参照ください。 https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001149870.pdf
3	感染症に関する新しい情報を知りたい。	感染症に関する最新情報は、内閣感染症危機管理統括庁や、厚生労働省からの正確な情報を得るようにされてください。 本市の感染症流行情報は、本市のホームページでも随時お知らせをしております。 https://www.city.sasebo.lg.jp/hokenhukusi/kansen/20231011.html
4	新しい感染症の発生の可能性はあるのか？ また、未知の感染症が出たら、どうするのか？	新型インフルエンザは、毎年流行を繰り返してきたインフルエンザウイルスとウイルスの抗原性が大きく異なる新型ウイルスが出現することにより、おおよそ10年から40年の周期で発生しています。また、地球規模での開発の進展により、未知のウイルス等の宿主となっている動物との接触機会の拡大が増大し、さらにグローバル化により、こうした未知の感染症が発生した場合に、世界中に感染する恐れも大きくなっています。 未知の感染症に対する対策は、感染症への知見が出る度に変更されていきます。随時内閣感染症危機管理統括庁や厚生労働省のホームページ、国立健康危機管理研究機構、日本環境感染学会、日本感染症学会等が出しているガイドライン等を利用していただきたいと思います。 (JIHS国立健康危機管理研究機構) http://www.niid.go.jp/niid/ja/ (日本環境感染学会) www.kankyokansen.org (日本感染症学会) https://www.kansensho.or.jp/ (厚生労働省 感染症情報) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/index.html